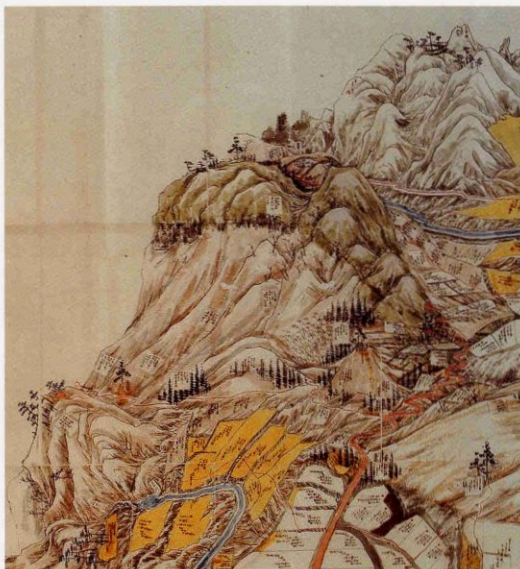
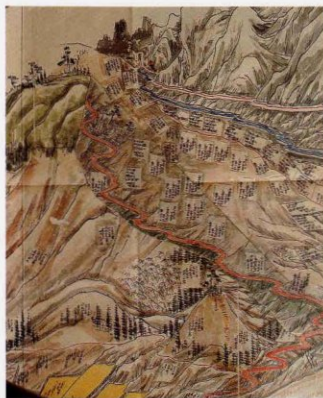


碓氷峠と坂本宿



碓氷峠への登り口(部分)

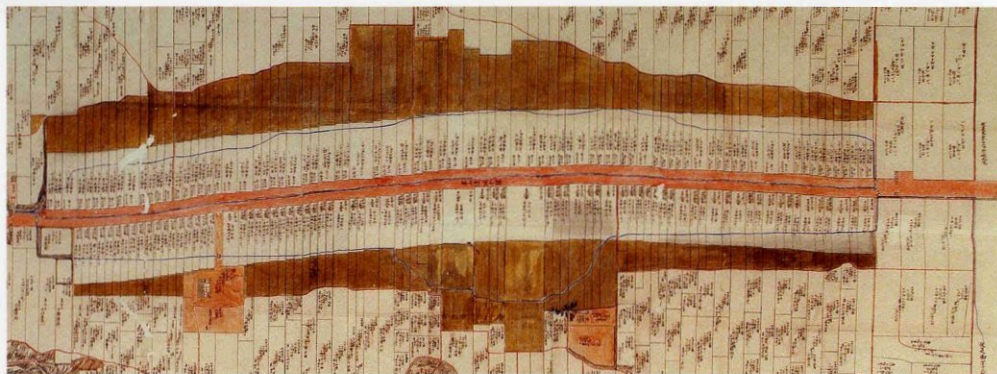


森の中を通る峠道の様子(部分)

この絵図は、地租改正に伴い明治6年(1873)に作成された地籍図(縦260cm×横235cm)ですが、坂本宿と碓氷峠の様子が分かります。上野国内の中山道は、武蔵国本庄宿(現埼玉県本庄市)から神流川を渡り、高崎・安中城下を経て、碓氷峠を越え軽井沢へ至ります。上野国内には、新町宿・倉賀野宿・高崎宿・坂本宿・安中宿・松井田宿・坂本宿の7宿がありました。江戸時代中山道の宿駅制度が成立するのは慶長7年(1602)以降のことです。坂本宿は天保14年(1843)家数162軒、人口732人で、天保末期には本陣2、脇本陣2、旅籠屋40軒がありました。

下の絵図から街道に沿って宿場特有の地割りが確認出来ます。屋敷の間口に合わせて伝馬役も課せられていました。この坂本宿から軽井沢宿までは急峻な碓氷峠越えが控えていました。途中、笏石山中に堂峰番所があり、碓氷関所を通らなかった者を取り締まっていました。

(参考資料)『群馬県史』通史編5 633~641頁、667~680頁



坂本宿(部分)